

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191400029		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	玄海町グループホーム玄海園		
所在地	佐賀県東松浦郡玄海町大字平尾380番地1		
自己評価作成日	令和1年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和1年12月3日	外部評価確定日	令和2年1月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当グループホームは2階建ての建物で、地域包括支援センター、社会福祉協議会のデイサービス、宅幼老所、高齢者住宅からなっており、そこに利用される地域の方々が時々面会に来られたり、同一敷地内にある特別養護老人ホーム玄海園との行事やクラブに参加されたりと幅広く交流が出来るように努めています。施設全体が年間を通じて花や緑に囲まれているので、気軽に散歩など行って自然に触れて頂いています。開設当所に比べ、入居者様の状態の低下がみられています。これからも体調に配慮して本人様の楽しみや地域との関わりなどに力を入れていきたいと思っております。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かで海や山が望める高台に立つ施設である。グループホームは当事業所を入れて二棟。先に開設した事業所は同じ敷地内にある。管理者は中・高校や公民館などで認知症サポーター講習を開催しており、未来を担う子供たちに認知症を正しく理解してもらおう取り組みを実施している。また利用者本位のサービスの提供に努めている。職員の業務は多岐にわたるが、柔軟な姿勢が アイディアと工夫に繋がっている。タブレットにて記録簿等を連動させ記入作業を効率的に行っていることや併設施設との一括調理による提供で調理する時間が省かれ、ケアへの相乗効果となっている。職員の入居者に対する笑顔ある声かけに基本精神 のEKAO(笑顔・気配り・安全・おもてなしの心)がうかがえる。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づきグループホームの目標を作成している。目標の理念は各職員が職員ノートに記入し共有、実践している。	法人理念を基本とし、それに沿って事業所独自の目標を掲げている。職員は常に遂行するノートに理念や目標を自書で記入することで会議等でノートを開く度に、まず理念や目標が目に入り意識付けとなっている。専門職の資格取得者が多いことや、自らが評価シートに掲げた目標クリアに向け実践している姿勢には理念が活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居様の希望で外出支援として、地域の老人会のゲートボール練習の見学に出かけている。地域の理美容室から訪問理美容、地区のパン屋の訪問がある。また、母体施設への舞踊や婦人会、保育園などからの訪問の際や季節の行事にもその都度、合同で参加している。	法人全体として地域に貢献し、隣接施設等と合わせて地域の人達が集える場が多い事業所となっている。玄海町産業祭見学や、地域における認知症サポーター講習など地道な活動も続けており、徐々に基盤が築けている。年末の餅つきには、地域の民生員の協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの資格を活かし、地域の方へ認知症の理解や支援をして頂けるように認知症サポーター講習を実施しており、今年も計画している。婦人会、民生委員会、小中高校生と幅広い方々を対象としている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月実施し、入居者様の状況や施設内での取り組みなど報告を行っている。また、運営推進委員会参加者の方からの意見も頂戴し、その議事録は事業所全体の上司や当グループホームスタッフ全員は回覧による報告を行っている。サービスについての意見や指摘事項があった場合には、月1回のグループホーム会議にて検討するようにしている。	運営推進会議は地域住民や家族代表、行政職員、民生委員などの参加で開催されている。地域の情報や住人に詳しい人が委員となっており、行政担当者や民生委員などにはそれぞれの専門性を活かした助言を頂いている。運営推進会議で欠席された場合は、議事録は郵送している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや困難な時には連絡を取ったり、地域ケア会議へ参加し情報源としている。また、運営推進会議にも参加して頂いている。	担当者とは運営推進会議にも出席があり常により取りできる関係はできている。開設後の期間も短く、成年後見制度や介護保険制度に関しての相談など行う機会も多く、実直に対応してもらえ協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設に高齢者虐待防止・身体拘束検討委員会が設置されており、当グループホームからも委員を選任している。月1回、グループホーム会議で身体拘束に対するケース検討を行い、その内容を身体拘束検討委員会で報告、再検討してもらっている。その議事録は施設全体に回覧されている。また、新入社員には身体拘束についての勉強会が計画されている。 当グループホームの玄関は施錠せず、建物全体の玄関は、日中、自動ドアになっている。	隣接する同法人施設との委員会は毎月開かれ、事業所は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は言葉による拘束や身体拘束が利用者に及ぼす悪影響を正しく認識しており、外出意向がある利用者には行動を抑えることはなく、玄関の施錠はせず、職員で連携し安全な生活が支援されている。契約時には、拘束の意味と内容を分かりやすい言葉で家族に説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に月1回のグループホーム会議において虐待に繋がるケアについて検討し、委員会にも報告をおこなっている。施設全体の研修会で虐待に対する勉強会も行われており参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体の研修会において年1回は相談員や社会福祉士等により講義を受けている。現在、対象者はいないが成年後見制度のパンフレットを設置し、活用に繋がるように働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	資料などを用いて丁寧に説明し、施設利用に対する不安なども伺い緩和できるように努めている。また、施設での生活における個人の希望なども伺い可能な範囲で受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当グループホーム玄関に、ご意見箱を設置している。運営推進会議に1名の家族様に参加していただき意見を頂戴している。また、年2回実施している利用者様と家族様の交流会の際に家族会議を開催し、家族様の要望や意見を伺い、入居者様の支援に活かすようにしている。	毎月発行される法人便りには、利用者担当の職員が近況など手書きで書き添えている。家族の来所は多く事業所で家族と直接会える機会を大切にし面会時には話しやすい雰囲気づくりに勤めている。家族会や匿名回答の独自アンケートなども行っておりその中で意見を出してもらい前向きに活かす体制がある。そして、事業所以外にも苦情や相談窓口があることは書類に明記され説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や年2回、直属上司との面接で意見を聞く機会を設けている。それ以外でも相談しやすい様に、一緒に仕事する際は、上司から声かけ話しやすい雰囲気づくりに努めている。	主任と職員は普段からよく話し何でも言える関係が出来ている。年2回の個別面談が行われ、また月1回のグループホーム会議は限られた時間内の会議のため事前にノートに記載し、出された意見や提案は、必ず管理者である施設長まで届き、対応がなされている。勤務時間帯の調整やリフレッシュ休暇の扱いなど、職員が継続して働きやすい環境づくりに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に年間及び半年の目標を立ててもらい、年2回評価を行うことで、本人の実績、達成度、努力などを把握する機会を設けている。また、時間外の削減の取り組みや有給休暇も積極的に取るように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に年間を通じた目標を立ててもらい目標達成に必要な働きかけや内部、外部の研修などに参加する支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1度程度、母体施設と合同で開催している研修に参加する事で、サービスの質の向上やネットワークづくりに努めている。今後、外部研修や交流会があれば、参加を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様や家族様に入居前に見学に来ていただき、話し合いをし、不安な事や要望などを聞き、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学や相談にはゆっくりと話を聞き丁寧な説明をし安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず、事前訪問を実施し入居者様の状態や生活の様子など情報収集を行って、入居当時から安全に安心して過ごしていただけるように努めている。また、必要なことはケアプランに入れ、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	金銭管理(嗜好品の買い物代行)、洗濯物たたみ、配膳、下膳、塗り絵や折り紙、毎月のカレンダー作り、カラオケ、生け花、運動教室への参加、おやつ作りなど限られた中でも入居者様ができること、得意な事、興味あること、能力などを見出し、それが発揮できるように誘導を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が来園された時は、家族様と過ごす時間を大切にさせていただいている。近況報告や相談なども行っている。電話の取り次ぎの際にも日頃の様子を伝えるようにしている。また、家族交流会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人・知人の面会を支援したり、入居前のゲートボール仲間の練習見学の外出を支援している。定期的に自宅へ外出される支援も行っていたが、現在は本人様の体調不良等で実施できていない。しかし、親戚の集まりや冠婚葬祭などに参加できるように支援している。また、遠方からの面会時には本人様の居室で食事を一緒に楽しんでいただく対応や宿泊を希望される場合には宿泊出来るよう対応している。	利用者全員が玄海町の住民であり、事業所は地元の馴染みの場所である。デイサービスを利用される知人が面会に来ることも多い。馴染みの美容室に家族とともに行かれる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で落ち着いて過ごされるように、リビングで腰かける位置、食事で腰かける位置、運動やレクリエーションで過ごす位置など、常に気を配り誘導している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終えられた時には、「困りごとがあつたら何時でも連絡して下さい」と声かけしている。また、本人様の状態や御家族様の要望に応じて、施設や、病院、ケアマネの紹介を支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のかかわりの中で訴えやご希望には耳を傾けるようにしているが、入居者様が話しやすいように、入居者様一人一人に受け持ちのスタッフをつけ思いや気持ちをゆっくり伺うようにしている。入居者様からの意向に対しては、グループホーム会議で検討し、思いに添えるように努めている。	入居から退所までの受け持ち体制となっており、利用者一人ひとりに応じた支援を心掛けています。日々の関りの中で、常に寄り添い、ゆったりと話し相手をしたり、発語のない利用者には、表情や仕草などから意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問や面談の際にアセスメントシートを活用し入居者様や家族様に生活歴などを尋ね把握している。また、入居後も面会時に入居前のことや趣味・こだわり等を尋ね情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者様の様子を個別の経過記録や申し送りノートに記載し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には家族様からの要望を聞き課題を見出している。また、グループホーム会議でも検討を行い必要に応じてケアプランに反映している。モニタリングに関しては個別援助計画書の見直しも兼ねながら毎月行っている。	家族や本人には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。タブレットにて日々の介護記録、スタッフの情報がすべて職員全体で共有でき、モニタリングが行われ、現状に即した介護計画が作成されている。状態に変化が生じた場合は、速やかに見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別援助計画書を基にケアを実践し、個別記録に実践、結果、気づきなどを記入して職員間で情報共有している。また、個別援助計画は月一回の会議の際に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で入居者様や家族様の希望や意向を柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族様との外出支援や関わりが主になっているが、今年は地域企業のテーマパークの見学を外出に取り入れ、企業のスタッフの方の協力で楽しく過ごしていただくことができた。家族以外の地域資源を今後もより多く協働できるようにしていきたいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの定期的な往診以外で受診が必要な場合は、必ず家族様に連絡を取り、受診介助している。可能な限り家族様にも同行してもらっている。場合によっては家族様に受診に連れて行ってもらうたりもしている。同行されなかった場合には、受診後に必ず電話等で結果を説明している。専門医の受診が必要な時は、協力医療機関より紹介書をいただき対応している。	要望があれば協力医療機関よりの訪問診療で健康管理を行うことができると入居時に家族や利用者に説明している。家族や利用者の意向を大切に、入居前からのかかりつけ医の継続受診も支援している。専門医などの通院は家族の送迎を基本としているが、職員での対応も行い、結果は家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を取得しており、協力医療機関と24時間体制での協力をおこなっている。体調不良者が出た場合には、協力医の看護職に報告し指示を受け必要に応じ受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院になられた際は、主治医、医療連携室の相談員などに情報提供を行っている。入院中も様子を見に伺ったり電話などで情報を伺ったりしている。また、退院が近くなった際は連絡を貰い、病院にて退院時カンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変や重度化した場合の対応についても説明し、当施設でできる事とできない事について説明をおこなっている。入居後も家族会や各入居者の状態変化時など再度説明し家族様の意向は大事にしている。又、主治医とも共有し支援している。	重度化した場合の対応に係る指針があり、契約時に利用者や家族に説明が行われ同意を得ている。まだ開設しての期間も短く看取りの経験はない。容態の変化に応じて家族にターミナルケアについて十分に説明を行い、主治医や施設と話し合いを重ねながら安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体施設との合同研修に参加し、AEDの使い方や心肺蘇生の実施の仕方を消防署から指導してもらっている。何かあった際は、上司に連絡し対応できる仕組みができています。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理マニュアルを作成し昼・夜間想定で年2回避難訓練を実施している。地域の消防団にも協力してもらい、体制もできている。原子力防災訓練にも開催時に参加している。	消防署や地元消防団の協力を得て、年2回の避難訓練は昼間と少し暗い時間の二通りで実施している。隣接する同法人施設との合同で、火元は交互に設定され、利用者は事業所の時のみ避難を体験している。職員には一旦帰宅後に呼び出しをかけ、実際に近い形をとっている。職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知しており、スプリンクラーや誘導灯の設置もある。また原子力発電所に近いことでシェルターを備えた特養施設内には非常食や水の備蓄もある。訓練での課題や反省点は速やかに委員会で検討されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声かけを常に心がけている。また、母体施設と年に1度以上プライバシー保護・高齢者虐待防止・権利擁護等の研修をおこなっている。	個人情報の利用目的を明確にし、契約時に利用者・家族に説明して同意を得ている。職員は、一人ひとりの人格を尊重し、排泄時の誘導や入浴介助など利用者の羞恥心に配慮した声かけやケアを行っている。またホーム便りなど写真を記載しているが、利用者や家族に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいようにゆっくりと分かりやすく気持ちや希望を聞くようにし、表情や仕草などからも思いが分かるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの能力、生活のペースを大切にし、その、時々で希望どおりに過していただくように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びができる方は選んでもらって更衣していただいている。洗濯や整髪など、できない所を介助して身だしなみも整えている。季節に応じた服選びも心がけている。散髪は訪問理美容を本人様や家族様の希望を取り入れて利用していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体施設厨房にて一括調理されたものをホームでつぎ分けて、食べやすくしたり、量を調整したりして提供している。嗜好についても情報提供し嫌いなものが提供されないように配慮している。また、本人様が食べたい物を可能な限り、入居者様と一緒に作り食べていただくこともある。準備や片づけが可能な方には手伝ってもらっている。	通常事業所内では炊飯のみ行っており、副食は母体施設で一括に調理されたものが提供されている。利用者の好き嫌いやアレルギーの有無の把握は出来ており、苦手な食材には代替えが用意されている。また季節行事に沿った食事も取り入れられている。職員は持参の弁当で同席し和やかに会話しながらの食事である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食ともに母体厨房にて管理栄養士によりバランスのとれたメニューで提供されている。水分は、食事時や食間、入浴後など、適時に提供しており、摂取された量は記録に残し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりに声かけし、理解できない方や自力移動できない方は、居室まで誘導し行ってもらい不十分なところを介助している。また、二週間一回、訪問歯科Drによる口腔ケアの実施とその指導も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用の方は排泄の量やパターンを把握して適切なアイテムを選択し適時に交換できている。ベッドサイドで自力排泄できる方にはポータブルを設置し適時に処理も行っている。リハビリパンツやパンツを使用されている方も仕草やタイミングから排泄のサインを見逃さず、声かけ誘導できており失敗も少ない。	排泄に関して声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。一人ひとりの排泄習慣の把握とケアにより紙パンツから布へ改善した例もある。夜間でもトイレで排泄される利用者には寄り添いながら自立支援に向けたケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、毎朝、ヨーグルトを提供し、10時の水分補給では、牛乳を提供している。水分量の少ない方は、ゼリーを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時、できる方には着替えの準備をいただいている。週二回以上入浴していただいているが、体調や希望によって別日に変更したり、清拭や足浴で対応している。	入浴は夏は週3回、冬は週2回を基本としているが要望があればいつでも入浴はできる。身体機能が低下した利用者も負担がかからないように配慮し対応している。入浴を拒む利用者には、無理強いせず日にちを変えたり、清拭や足浴など行い支援している。浴室や脱衣場など室内環境も整い室温設定されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床、日中の休息など自由にされている方もいれば、睡眠や生活リズム、その日の状態を把握し休息をとっていただくように、声かけ誘導する方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬については、薬剤師の内服薬説明書で確認を行い、職員間で情報を共有しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活では洗濯物たたみ等を手伝ってもらったり、生け花や書道、塗り絵など希望される楽しみを提供している。また、入居者様の好みのお菓子等を家族様より、差し入れてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ出たいと希望されたり、そのような行動が見られた際は可能な限り付き添っている。毎週ではないが、週一回外出の日を設けて、行事や買い物、散歩やドライブ、希望される所への外出を全体及び個別に支援している。	広い敷地には程よい坂道もあり日常的に敷地内の散歩は行っている。要望があれば近くの店まで買い物に行くこともあり、できるだけ本人の意向に沿いながら支援している。車椅子利用であっても季節に合わせドライブなどに出かけ、全く外へ出ないという利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点でお金を所持されている入居者様は二名で、他の方は管理が困難。買い物を希望されている入居者様はいらっしゃるので、母体施設の売店や衣服移動販売店などで買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望通りに支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からはその日の天気や季節が感じられる。ベランダの方は日当たりもよく、窓越しに日光浴をしたり、風のない日はベランダに出てお茶を飲んでいただいたりしている。食堂の掲示板には毎月入居者様と手作りしたカレンダーや季節感のあるものを掲示している。	新築された建物の二階に事業所はある。利用者が日中のほとんどを過ごすリビングは広く、テーブル席には利用者が活けたきれいな花が飾られている。脇には畳の部屋もあり、縁側は、程よい高さでベンチ風にも使え天気の良い日は入居者はゆっくりくつろげる。廊下も広く、歩行を妨げる物はない。共用部分の清掃はすべて専門業者に依頼されており、嫌な臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いに過ごしていただけるように支援しているが、リビングの椅子の配置は今後も検討しながら支援を行っていきたいです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にとって安心できるもの(仏壇や家族の写真など)、実際に自分で管理できるもの、家族様が希望されるものなど限られた空間のなかではあるが、その人らしい居室づくりを支援している。	火気等の危険物以外に持ち込む品物の制限はない。窓を開けて換気もし、掃除は毎朝職員が行っている。仏壇を持つ人には職員により花や水、仏飯も毎日供えられている。居室には家族の写真や花、また手を借りながら作った季節の飾り物などがあり、それぞれの方が、自分らしくゆっくり過ごせる居室になっている。家族の希望があれば居室や和室での宿泊も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能や認知症の状態を理解し、転んでもケガをしないマットを敷いたり、本人様に合った福祉用具を家族様に購入してもらったりして、本人様の行動を止めないように安全かつ自立した生活を送っていただけるよう工夫している。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない